

URL:fukushimafolklore.com

E-mail:fukushima.folklore1971@gmail.com

令和7年度東北地方民俗学合同研究会「天王(祇園)信仰と東北の生活文化」

令和7年11月22日(土)、盛岡市の会場で第41回東北地方民俗学合同研究会が開催された。今回は岩手民俗の会が主催し、日本民俗学会の共催のもと、実地参加とオンライン参加のハイブリット形式で行われ、東北地方以外からの参加者もみられた。

本大会の共通テーマは「天王(祇園)信仰と東北の生活文化」であり、テーマの採択理由については、コロナ禍を経て除災の民俗が再注目されたこと、除災の民俗として天王(祇園)信仰にはさまざまな研究蓄積があること、一方で全国的に地域ごとの民俗信仰への関心が希薄になってきていることが挙げられた。各県の代表による研究報告は以下のとおりである(発表順)。

①丹野香須美氏(当会)「浜下り習俗をともなう天王信仰の祭礼～「御宝殿熊野神社の稚児田楽と風流」の祭礼について～」

御宝殿熊野神社(いわき市)の祭礼は天王信仰がもとになっている要素が多く、一連の祭礼のなかで行われる浜下り行事も天王信仰との強い結びつきが伺える。浜下り行事の多様性について改めて考えさせられた。

②岩鼻通明氏(山形民俗研究協議会)「羽黒山手向橋本坊と韓国春川に祀られた牛頭天王」

羽黒山手向のみならず、韓国・春川の牛頭山での実地調査を経た報告は、本邦の植民地政策にまで言及する視野の広い内容であった。

③及川宏之氏(東北民俗の会)「除災にまつわる民間信仰～神送りと村境の人形神～」

「除災」に関わる民俗信仰一般の類型をあらた

めて振り返り、「神送りの人形」「ムラ境の人形神」についてまとめていた。これから除災にまつわる習俗や人形神の研究をしようとする人間のガイドになるような内容であった。

④石郷岡千鶴子氏(秋田県民俗学会) 東湖八坂神社大祭における天王信仰

東湖八坂神社(秋田県潟上市)の祭礼について、「竹迎え」や「牛乗り神事」に着目して天王信仰に関連する要素を検討した。石郷氏は牛頭天王のとらえ方について、単なる疫神ではなく、より広範な機能を期待される「疫病をコントロールする神」であるとした。

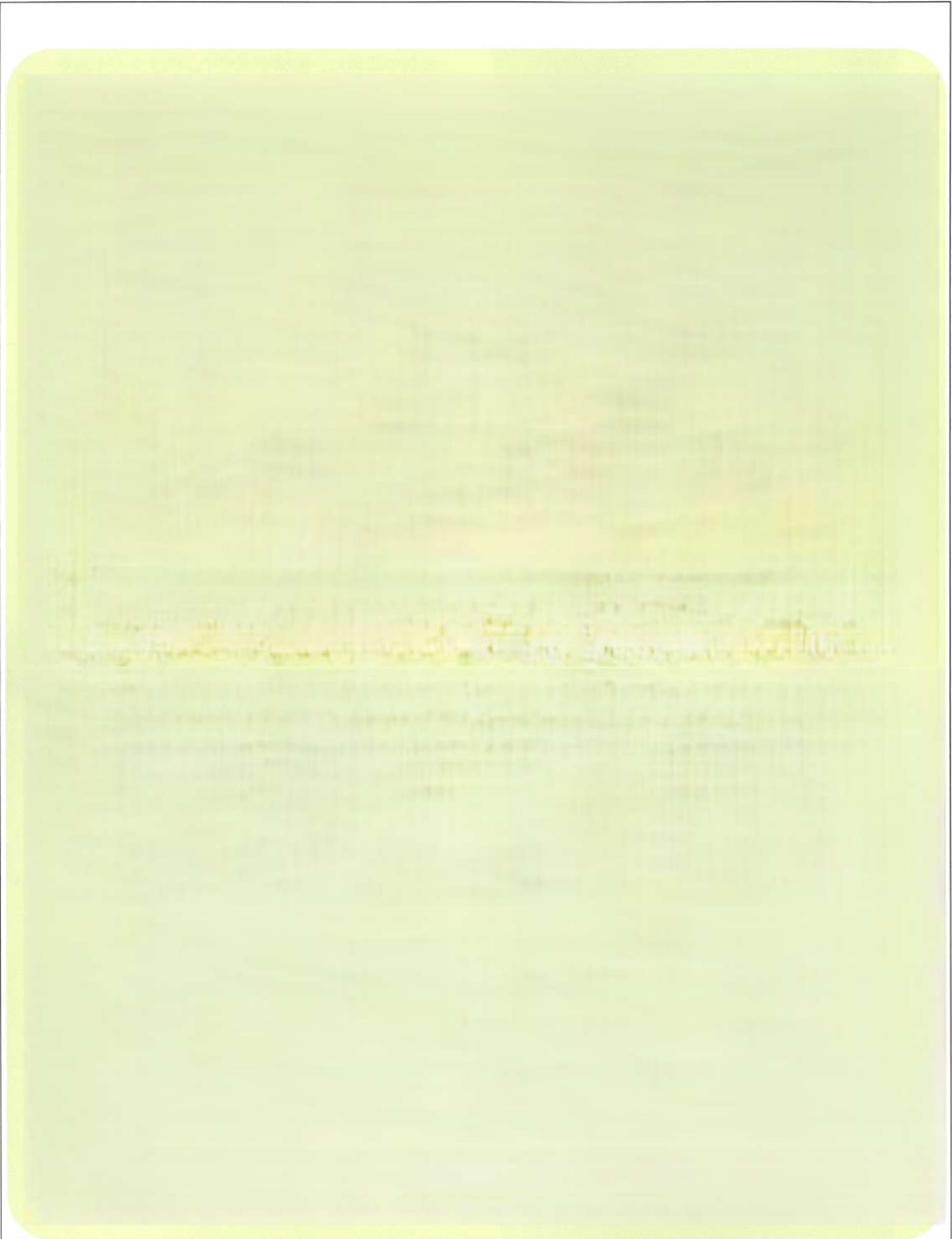
⑤村中健大氏(青森県民俗の会) 青森県の天王(祇園)信仰

神仏分離以降の八坂神社をはじめとした社寺の活動やその祭礼について、蘇民将来に関連する習俗などを中心に牛頭天王信仰を検討した。めどづ(河童)と天王信仰との結びつきを示す民俗事例は大変興味深かった。

⑥阿部武司氏(岩手民俗の会)「岩手県の蘇民将来への信仰形～蘇民祭や神楽から～」

蘇民祭と民俗芸能からうかがえる天王信仰を検討した。早池峰系神楽である幸田神楽が天王信仰の流布に寄与した可能性を指摘した。映像資料がふんだんに用いられ、臨場感をもって受け取れる報告であった。

以上6名の発表に続き、質疑応答の時間では、当会の丹野氏への質問が多かった。浜下り習俗と天王信仰という新しい切り口が多く関心を生んだのだと思われる。次回(令和8年)は宮城県での開催であり、沿岸地域の暮らしをテーマにす



福島県民俗学会通信誌 『ふおーらむ・F』 22号 2026(令和8)年3月31日発行
編集・発行：福島県民俗学会（会長 岩崎真幸） 本号編集担当：大里正樹